

高校や大学受験のために多くの子どもが予備校に通っているのが現実ですが、親も子どもも本当は予備校などには行きたくないし、行かせたくもないのです。

数学オリンピックに出場した子どもを育てた母親にインタビューした『数学の天才児ができた！』という本によると、どの母親も予備校や塾には子どもを通わせてはいません。しかも、子どもに教育をしたのは、小学校に上がるまでで、それ以後は親は何もしていないのです。にもかかわらず、オリンピックに出場した子どもたちは東京大学とか京都大学に合格しています。

私には二人の子どもがいます。慶応義塾大学と早稲田大学に入りましたが、やはり予備校には通っていません。むしろ、私が家庭で勉強をみてやったということもありません。それどころか、就学前に漢字を教えただけで、それ以後は何もしていないのです。百科事典を買ってやった程度のことです。

幼児期にしっかりした教育さえしておけば、親も子どもも受験戦争から解放されるのです。こんな楽なことはありません。